

# 高校教育の現場から

Vol. 24

## 宮地 雅之 Masayuki Miyachi



東福岡学園 東福岡高等学校  
英語科教諭

1975年 福岡県生まれ  
2000年 明治大学文学部文文学科  
英米文学専攻 卒業  
2002年 明治大学大学院文学研究科  
英文学専攻 修了  
2002年 東福岡高等学校 赴任  
2014年 現職

### 【主な著書(協力)】

- 総合英語 be Voyage to English Grammar New Edition
- 世界にはばたくための新・英単語学習システム MEW Exercise Book Days 1200
- 世界にはばたくための新・英単語学習システム MEW Exercise Book Core 500 (いっすな書店)



東福岡高等学校

東福岡と言えば、やはりサッカー・ラグビーなどで全国に名が知られており、スポーツ学校という印象を受けるようです。本校は「文武両道」を

私が現在勤務している東福岡高等学校はいまや事実上福岡県唯一の男子校で、なおかつ全校生徒数も2400名超えの大規模校です。在校生徒の9割以上が大学進学を希望し、国公立大から関東・関西・地元私大に至るまでバラエティに富んだ出願をします。私学の命題として、「良質な教育サービス」を提供し続けることが中学生や保護者が本校に眼を向けてくれる源泉です。その一環として「出口の保障」をすることに特に傾注して指導をしています。

動生も例外ではありません。現在私は中高一貫コースの高校3年の担任として進路指導にあたっています。生徒たちは中学時に学力面や生活面において色々悩みを抱える中で、高校に入り私の学級に入りました。それでも生徒たちは人間としての根っこの部分は素直で、私とうまく人間関係を築くことができました。学力をつける以前に生活を正すことが優先と、初年度は勉強のことはほとんど触れずに生活指導に明け暮れました。その後、私の言葉に響くものがあったのかはわかりませんが、多くの生



英語の授業風景

目標としており、授業時間を確保するために、正課授業に加えて早朝・放課後課外授業が行われています。部活

「最新の自分が最高の自分」を目標に

# FROM THE HIGH SCHOOL EDUCATION



学園祭など行事では大変盛り上がります

徒が進路に対して強い目標を抱くようになっただけでは子ども・保護者は満足してくれません。学校行事をはじめとした思い出づくりも学校への満足度を上げるために大事なことです。ここでは自分の裁量で動ける部分が多分にあり、これまで勉強合宿・サマーキャンプ・コース集会など色々企画実行をしてきました。そのようなイベントで精力的に写真やビデオを撮って、DVDに収録して渡すと、親子ともとても喜んでくれます。まもなく受験ですが、上位者は国公立大から関東・関西の有名私大にチャレンジできる段階まで到達しました。勿論明治大学を受ける者も数名おります。おかげさまで成績も例年より良く、入試結果も非常に楽しみです（2月現在）。

本校で有名な卒業生といえば、現在ゼンテラミラノでプレーしている長友佑都氏が筆頭に数多くいますが、実は彼は私のクラスの卒業生で

す。彼は明治大学に進学していますし、興味のある方もいらっしゃると思いますので彼の話を少ししましょう。高校時はクラスの中では特に目立った存在ではなく、かと言って部活動だけに力を注ぐという偏った姿勢は皆無でした。授業中は模範的な態度で、教員からも好印象を持たれていましたし、級友からも愛される存在でした。それでいて内に秘めた闘志のようなものを垣間見せることもあり、とりわけサッカーに関しては絶対愛でした。彼の自己PRプリントには、「趣味」「特技」「興味のあるもの」の欄すべてに「サッカー」と記載していた程です。進路に関してはサッカー選手になるのは夢だが、その後の人生の方が長いのできちんと大学を出て、ゆくゆくは指導者になりたいと思っていました。私もアスリートのセカンドライフに不安定さを感じていたので、教員免許を取得して将来に備えるよう勧めました。

今でこそ全国のサッカーファンのみならず、一般の方々にも認知される存在となりまして、担任としてそして明治OBとしても誇りに思います。しかし、高校在学時に彼が現在のような世界レベルの選手になることは、私はおろかサッカー部の監督でさえ正直想像できませんでした。それはつまり、人間のピークを見定



2009年12月に記念試合で来校した長友選手

めることは極めて困難なこと、もしくは成長指数は未知ということですから、私は日頃の生徒指導において、たとえ急情な学校生活を送る者がいたとしても、まだまだ発展途上の段階であっても、いずれ大人たる姿勢を取るようになって、寛容に捉えています。私たちにしても、「今」の自分は「過去」に失敗を積み重ねてきた自身の発展形のはずです。彼の伸長を根拠に、私も自分の教員としてのピークはまだ先だと考えています。「最新の自分が最高の自分」と言えるよう、日々研鑽を積み重ねていきます。